

奈良のむかしばなし

文・山崎しげ子

第三十話

土ぐも退治



主人神社

矢田丘陵のふもと、矢田町にあり、小さな祠が残る。裏手はうっそうとした森で、この境内が土ぐも、六部さん、犬のサン、の死闘の舞台ともいわれている。少し離れた左手に「主人神社」と彫られた石柱が立つ。

昔、国じゅうを旅している六部というお坊さんがいた。ある日、六部さんが犬のサンを連れて外川の村（今の和郡山市外川町）にやってくる。なぜか、村の中は静まり返っていた。

と、ある農家の庭に大ぜいの村人が集まり、しくしくと泣いていた。六部さんがたずねると、一人のおじいさんが「今日は孫娘を人身御供に差し上げる日で、それがかわいそう」といった。

実は、外川の西に深い山があり、そこに昔から、山の主の土ぐもがすんでいた。その山の主に毎年若い娘

を人身御供に差し出す習わしがあり、それに背くと、村に恐ろしい祟りがある、というのだ。

六部さんは、大そう気の毒に思い、「その山の主、私が退治してやろう」といい、犬のサンを連れ、娘の手を引いて山の奥へ入っていった。

やがて夕方になり、どこからか、一匹の大きな土ぐもがのそりと出てきた。毒をもった牙をガチガチと鳴らし、真っ赤な舌をべろべろと出してこちらに向かってくる。

土ぐもは銀色の太い糸を何筋もパツと吐きかけ、ぐるぐると巻こうとした。「サン、今や、足に咬みつけ」

しばらくは、六部さんと犬のサン、土ぐもの激しい戦いが続き、やがて、サンは土ぐもを咬み殺した。だが、サンも土ぐもの毒で死んでしまった。



今年で30回目を迎える矢田地区の秋の恒例イベント。会場の市総合公園では各自治体や学校などがお店を出し、運動会も行われて、大いに賑わう。(今年は10月23日開催予定)

物語の場所を訪れよう



「主人神社」へは…
 [電車・バスの場合]
 近鉄橿原線郡山駅より
 奈良交通バス矢田寺行き
 矢田東山バス停下車西へ約300m
 なお、駐車場はありません。
 大和郡山市矢田町796
 同 社 務 所 ☎ FAX 0743-52-7313

村人たちは、娘の無事を喜び合い、サンを手厚く葬った。

大和郡山市に生まれ育ち、「郷土の民話」の著者である駒井保夫さんによると、矢田の主人神社では、明治初年まで、少女を境内の仮小屋に住まわせるという、人身御供とも解される習わしがあったそうだ。

それを破った年は、矢田一帯が深刻な早に見舞われたとか。神社のある辺りは、昔は大変寂しいところで、ぬすつと(盗人)や追剥が頻繁に出没したという。そのため、地元では「主人神社」ともよばれているらしい。

今は、開発が進んで住宅や店も建ち、西に矢田丘陵の濃い緑を間近に望む明るい地域となっている。